

# 第六学年〇組 体育科学習指導案

## 単 元 バスケットボール

### 指導観

- 本学級の子供たちは、これまでに、パス、シュート、ドリブルのボール操作中心の動きで、相手チームと競い合う楽しさに触れることができるようになってきている。しかし、ボール操作が成功しやすい状況をつくり出しながらプレーして競い合う楽しさを味わうまでには至っていない。そこで、誰もが楽しくゲームに参加するためのルールを工夫したりチームの特徴に応じた作戦や練習の進め方を選んだりすることができるようになるこの期に本単元を取り上げる。そして、ルールを工夫したゲームに挑戦し、チームが得点するための動きを高め、仲間と力を合わせて競い合う楽しさを味わうことができるようにする。このことは、チームの課題を解決する子供を育てる上からも意義深い。
- 本単元に関しては、第5学年「シートバスケットボール」で、パスしたり、ドリブルしたりして、ボールをシュートしやすいシート（場所）に運び、シュートして得点することで相手チームと競い合う楽しさを学習してきた。本単元では、これらの上に立って、ボール操作やボールを持たない動きを行うときの状況判断力を高めることで、チームで得点したり、失点を防いだりして、仲間と力を合わせて競い合う楽しさを味わうことができるようにする。このことは、中学校第1学年「バスケットボール」で、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開することにより、集団対集団で勝敗を競う楽しさや喜びを味わう学習へと発展していく。
- 本単元の指導に当たっては、ルールを工夫したり作戦や練習を選んだりして、ボールを素早く正確につなぎシュートするチームの動きを身に付け、仲間と力を合わせて競い合う楽しさに触れることができるようにする。特に本時指導に当たっては、まず、導入段階では、前時の守りが1人のゲームでパスをつなげたことを振り返り、「元のルールに近い状況でもパスをつないで得点したい」というめあてをもつことができるようにする。次に、展開段階では、守りが2人のゲームに挑戦し、受け手のボールを持たないときの動きを中心にパスの動きを高めることができるようにする。最後に、終末段階では、本時の学びを三つの観点で振り返り、伸びを実感することができるようにする。

### 目標

- 1 成功する確率の高い位置やプレーを判断した上での、パス、ドリブル、シュートのボール操作や、空間へ移動するボールを持たないときの動きによって、得点を競い合い、簡易化されたゲームを行うことができるようにする。
- 2 全員が活躍して、楽しむためのルールを工夫したり、得点したり、失点を防いだりするためのチームの特徴に応じた作戦や練習を選んだり、課題の動きについて図や言葉、動作で他者に伝えたりすることができるようにする。
- 3 積極的にゲームに取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、内容・結果に関わらず勝敗を受け入れたり、友達と作戦や練習について話し合う際に考えを認め合ったり、場や用具の安全に気を配ったりする態度を育てる。

### 計画（7時間）

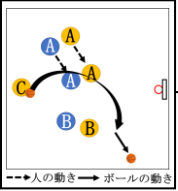
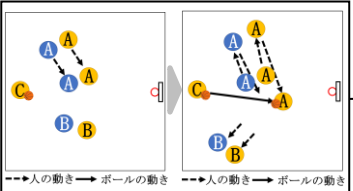
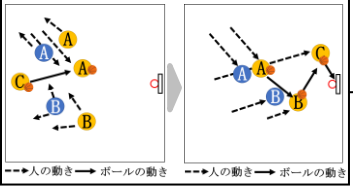
- 1 試しのゲームに挑戦させ、バスケットボールへの思いや願いをもたせる。————— 1
- 2 ルールを工夫したバスケットボールに作戦や練習の仕方を選んで挑戦させ、動きを身に付けさせる。 —— 5  
(1)シュートの動きについて----- ① (2) ゴールにボールを運ぶ動きについて----- ③本時 2/3  
(3)守りの動きについて ----- ①
- 3 バスケットボール大会に挑戦させ、動きの高まりを実感させる。————— 1

本時 令和6年6月14日（金曜日） 第5校時 体育館において

- 主眼 1 得点の喜びを味わうために、受け手が自分とボール保持者の間に相手が重ならない場所へ素早く走り出し、フリーになるまで移動し続けて、パスされたボールを捕ることでシュートにつなぐことができるようにする。
- 2 受け手のパスの待ち方に着目し、出し手や守りの動き方を基にパスを受けやすい場所や移動の仕方について考えながらチームで練習を進め、課題の動きについて友達に図や言葉、動作で伝えることができるようにする。

準備 バスケットボール、ビブス、得点板、タイマー、学習者用端末、モニター

過程

段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	<p>1 守りが増えても素早く正確なパスでたくさんシュートしたいという思いから、パスを向上させるめあてについて話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 2px;"> <span>攻め3人対守り1人のゲーム</span> <span>攻め3人対守り2人のゲーム</span> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元初めのルールに近づけてゲームを行いたい。</li> <li>・ 守りが増えても素早く正確なパスでつなげられるかな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>守りが増えたゲームでも、素早く正確なパスでたくさんシュートにつなぐことができるようになる。</p> </div>	<p>○前時からルールがレベルアップしたゲームに挑戦する意欲をもつことができるように、保存していた前時のパスをつなげられた映像を視聴する場を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>【ルール ※本時変更点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1試合の時間〔ゲームⅠ：4分、ゲームⅡ：8分〕</li> <li>・ 攻め3人対守り2人のハーフコートゲーム</li> <li>※ローテーションで交代しながら運動する</li> <li>・ ボール保持者は2歩まで歩ける</li> <li>・ ゴールイン3点、リング1点</li> <li>・ パスボーナス 2人：+1点、3人：+2点</li> </ul> </div>
展開	<p>2 守りが増えたゲームに挑戦し、パスの受け手のボールを持たないときの動きを高める。</p> <p>(1) ゲームⅠに挑戦し、パスでボールをつなぐときの受け手の動きに関する問題や課題を把握し、解決の見通しをもつ。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  <p>・ 守りが増えると、素早く正確にパスをつなげることが難しい。【チームの問題】</p> <p>・ 受け手のどちらも相手と重なっているからパスが通りにくい。【原因】</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>・ 受け手が相手と重ならないように動かないといけない。【課題】</p> <p>・ ペアチームを相手役にしたパスの練習で受け手の動きを確かめるとよさそう。【解決方法】</p> </div> </div> <p>(2) ペアチームで受け手の動き方について話し合い、守りと重ならないように移動し続ける受け手の動きを練習する。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  <p>受け手は、ボール保持者がパスをしやすいように、守りと重ならない場所へ素早く走り出し移動しないとけない。</p> </div> </div> <p>守りが受け手の前にいる場合は何度も移動し続けてフリーになり、出し手からのパスを受けられるようにしよう。</p> <p>(3) 移動し続ける受け手の動きのポイントについて助言しながら、ゲームⅡに挑戦する。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 10px;">  <p>ペアチームとの練習でしたように、フリーになるまで素早く走り回って、パスを受けやすくしよう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>受け手が移動し続けることで、パスが素早く正確に行えるようになりシュートが増えた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>受け手が守りと重ならない場所へ素早く走り出し、フリーになるまで移動し続けて、ボールを受けることでシュートへつなぐことができる。</p> </div>	<p>○受け手のパスの待ち方に注目することができるように、提示したボール保持者視点の映像を基に問題の解決について交流する場を設定する。</p> <p>○チームの動きやそれに伴う個人の動きを共有することができるように、学習者用端末の作戦ボードでボールや人の動きを編集して表し、交流する場を設定する。</p> <p>○課題の動きを理解することができるように、モデルを紹介する場を設定する。</p> <p>○チームの課題となる動きを高めることができるように、学習者用端末で練習での動きを撮影し、保存する場を設定する。</p> <p>○練習で高めた「守りと重ならない場所へ素早く走り出し、フリーになるまで移動し続ける」受け手の動きを実際のゲームの状況で発揮することができるように、移動する場所やタイミングについての助言をコート内で行う。</p>
終末	<p>3 本時の学びについて振り返り、交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受け手の移動し続ける動きがゲームでできた。【知識・技能】</li> <li>・ 友達と受け手の動きについて伝え合うことができた。【思考・判断・表現】</li> <li>・ ルールを守ってゲームを行うことができた。【主体的に学習に取り組む態度】</li> </ul> </div>	<p>○本時の学びを振り返ることができるように、目標の三つの柱を振り返りの観点として示す。</p>